



電話での名乗りをロールプレイする参加者＝9月21日、大阪市内

「人が一番印象に残るのは55が表情、38がシヨン、7が言語での

北河内地区
遭遇研修会

第一印象 表情55パー 言葉38パー

西出氏 相手見えない電話対応の大切さ強調

吹田・高槻
田尻・交野

もの――協会の北河内地区が9月21日、大阪市内で開いた「洗練された遭遇・電話対応」で講師の西出知子氏(遭遇マネーインストラクター)は、患者が来院した時の遭遇の重要性と、相手が見えない電話対応の大切さを強調した。歯科医師・スタッフら80人が遭遇・電話対応の基本を学んだ。

西出氏は、「相手の立場に立つてその人がどのようなことをして欲しいのか、何を求めているの

か気づくこと、目を配ることである」と遭遇の大切さを強調した。

また、特に身だしなみに気づかって欲しいと指摘、院長から言いづらい場合は「身だしなみチェックリスト」を作成しておく」と良いとアドバイスされた。

研修は、あいさつ、笑顔、言葉づかい、お辞儀の角度などを説明、電話での名乗りを全員でロールプレイングした。

参加者からは、「目からウロコ」「ロールプレイングはためになった。学術だけでなくスタッフ講習会を今後も開催してほしい」などの感想が寄せられた。

協会の北大阪地区は9月14日、吹田市千里南公園で開かれた「吹田よっ

よっといで祭で歯科健診 過去最高の500人が受診

北大阪地区



子どもらの受診でにぎわう健診会場＝9月14日、吹田市内

診を実施、歯科医師7人のほか、12人の歯科衛生士らが出務した。

同祭は今年で26回目をむかえ、吹田よっといで祭実行委員会(実行委員長は医科協会の坂口道倫副理事長)を中心に、吹

田市・吹田市教育委員会・吹田市自治会連合協議会・吹田市社会福祉協議会が後援、ボランティアや市民団体に支えられており、今年は4万5千人が来場した。健診には500人が受診した。

健康の隣のブースには健康についての夢を話す企画「ドリームカフェ」を設置し、診療所ではない場所での自身の健康について話せる場とした。

親子連れの参加者が目立ち、お母さんが「遊びに行く前に診てもらいたい」とテント前で子どもに説明する光景などが見受けられた。出務した歯科医師は丁寧にアドバイスした。

受診者には、「より良く食べるはより良く生きる」パンフなどを提供し、大阪府の「4医療費公費負担成制度の見直し」の中止を求める署名への協力を呼びかけた。

医療の現場からの参加者は、「4医療費助成制度の改悪で窓口負担が増えると受診抑制が起これる」と訴えた。集会後参加者は、無駄な大型開発の中止や府民施策の充実を求めてデモ行進した。

健康の隣のブースには健康についての夢を話す企画「ドリームカフェ」を設置し、診療所ではない場所での自身の健康について話せる場とした。

親子連れの参加者が目立ち、お母さんが「遊びに行く前に診てもらいたい」とテント前で子どもに説明する光景などが見受けられた。出務した歯科医師は丁寧にアドバイスした。

医療の現場からの参加者は、「4医療費助成制度の改悪で窓口負担が増えると受診抑制が起これる」と訴えた。集会後参加者は、無駄な大型開発の中止や府民施策の充実を求めてデモ行進した。

る。医療費助成改悪を止める運動は、予算の骨格が決まる12月までが一つの正念場になる。さらに

運動を広げて、府民のセーで討論し、大きな成功をおさめた。これから、地区の主催で同じ趣旨のセミナーを開く。

社会保障拡充の声を大きくするための取り組みとして協会は、近畿単位で社保協や労働組合、高齢者団体などと一緒、11月29日、大阪・本町の御堂会館で千人を超える規模の集会を開く。協会では100人の参加を目標にする。会員だけでなく家族や診療所従業員などでの参加を呼びかける。

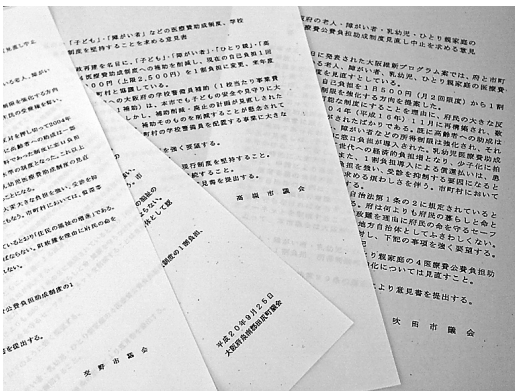
医療問題を患者・市民に直接訴えるため、医科・歯科協会で、毎週1回水曜日の午後5時45分から30分のCMを流している。医科版は9月から、歯科版は12月から始まる。小澤力政策担当副理事長を中心に広報委員会が企画している。

会務運営では、来年5

月16日に評議員会、24日に総会を開くことを決め、方針案づくりや役員

改選などの準備に入っていく。

4医療費助成改悪ストップへ 協会の要請にこたえ意見書採択



吹田市・高槻市・交野市・田尻町議会で採択された意見書

協会の要請にこたえて、田尻町議会が25日、吹田市議会が26日、高槻市議会・交野市議会が29日に「大阪府の老人・障がい者・乳幼児・ひとり親家庭の4医療費公費負担成制度見直し中止を求める意見書」を採択した。

吹田市では会派要請の際、ある議員から「市は大府のいいなりで進めてはいけない」の声も出た。

るなど、要請に応じた会派では協会の趣旨に概ね賛意を示していた。また同市議会では、「4医療費」とともに、協会も参加する吹田社会保険推進協議会が提出した「大阪維新」プログラム(案)の抜本見直しを求める意見書」も同日に採択されている。田尻町では、協会から要請した意見書がそのまゝの内容で採択された。

橋下知事の『大阪維新』プログラム(案)によると4医療費助成制度の削減は、窓口負担が「現行1回500円(1医療機関月2回上限、複数医療機関受診の場合は2500円上限)から、1割負担(月2500円上限は維持)」に、所得制限が「障がい者が障害基礎年金から特別障害者手当準拠へ、乳幼児については児童手当特例給付から児童手当準拠」に強化され、来年度からの実施が検討されている。

橋下「改革」に対して、医療・教育・文化界から300万筆を超える署名が集まるなど反対運動が高まっている。また、大阪府の第2回「福祉医療費助成制度に関する研究会」では、「患者負担が増える一方で、システム改修などのコストを費やすことになり、実質的な財政効果は低い」

な。反対意見も強い。今後、9月府議会で『大阪維新』プログラム(案)について議論される。

第17回理事会
総選挙対策など歯科医療改善で討議

9月13日に開いた第17回理事会で、協会は10月11日に投票といわれる総選挙において、後期高齢者医療制度の廃止、社会保険費の総枠拡大と患者負担軽減、歯科医療の改善を総選挙の争点の一つに押し上げていく運動対策を強めることを決めた。

そのため、10月2日の国会要請行動で、地元選出国会議員に後期高齢者医療制度廃止の請願署名を持って協会の要求への賛同を広げる。衆議院選挙の立候補予定者にアン

ケートを取り、議員・候補者の政策を機関紙で会員に知らせる。

日本歯科医学会・江藤一洋会長が「補綴を外すというわけにはいかないが、そうしない限り歯科医療費の総枠を拡大することはできない」「保険外併用療養費ないしは自費の部分で活路を見いだすというのが一つの考え方」と補綴の保険外しを企図した発言をしたことに対して、理事会は「患者・国民の願いに背く『補綴外し』発言に強く抗議する」と声明を採択、

江藤会長や関係先に送付することを決めた。

橋下徹大阪府知事が「維新」案で4医療費助成制度の後退をねらっていることに対して、協会は8月・9月の市町村議会に見直し反対の意見書採択を働きかけた。9月19日開会の9月議会から12月議会が重要になることから、市町村議会・府議会への要請を続けながら、11月には大阪府との直接交渉の機会を持つ。

指導・監査体制の強化や施設基準などによる歯科医院締め付けへの対抗

策は、8月のサマーセミナーで討論し、大きな成功をおさめた。これから、地区の主催で同じ趣旨のセミナーを開く。

社会保障拡充の声を大きくするための取り組みとして協会は、近畿単位で社保協や労働組合、高齢者団体などと一緒、11月29日、大阪・本町の御堂会館で千人を超える規模の集会を開く。協会では100人の参加を目標にする。会員だけでなく家族や診療所従業員などでの参加を呼びかける。

大阪府歯科保険医協会

第17回理事会

府民要求連絡会

府議会開会日に集会

協会も参加する大阪府民要求連絡会は9月19日、大阪府の定例9月議会の開会日にあわせて、「福祉・教育・文化を切り捨てるな」「無駄な大型開発をやめて財政再建を」と府民集会を開き、約300人が参加した。

医療の現場からの参加者は、「4医療費助成制度の改悪で窓口負担が増えると受診抑制が起これる」と訴えた。集会後参加者は、無駄な大型開発の中止や府民施策の充実を求めてデモ行進した。